

公園の除染を 行っています！

市では、8月から11月にかけて、放射線量率が比較的高い公園14施設の除染を行いました。「広報うしく12月1日号」で、10月中旬に除染後の測定を終えた12公園の放射線量率をお知らせしました。今回は前回お知らせできなかった栄西第一公園、ひたち野さくら公園の放射線量率をお知らせします(表1)。

栄西第一公園は除染前の3分の1程度に、ひたち野さくら公園は除染前の半分程度に放射線量率が低下し、除染基準の1時間当たり0.23マイクロシーベルトを大きく下回る状態になりました。

今後も、子どもたちの遊び場、市民の憩いの場である公園で安心して過ごしていただけるよう、順次除染作業を進めていく予定です。

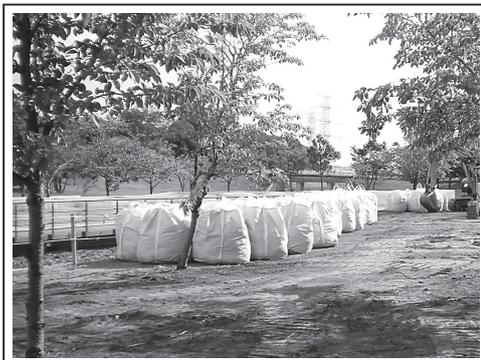
【表1】除染実施公園(2カ所)の除染前後の放射線量率 (単位：マイクロシーベルト/時)

公園名	所在地	測定箇所数	空間放射線量率平均(測定高50cm)				
			除染前		除染後		除染前との比較
			測定日	測定値	測定日	測定値	
栄西第一公園	栄町1-56-64	27	6/13	0.240	11/9	0.089	37.1%
ひたち野さくら公園	ひたち野東5-32	343	6/27、7/3・4	0.239	11/9・14	0.130	54.4%
エリア①(桜並木通り沿い)		98	7/3	0.238	11/9	0.126	52.9%
エリア②(公園南東部)		66	6/27	0.235	11/9	0.124	52.8%
エリア③(公園南西部)		106	7/4	0.252	11/14	0.132	52.4%
エリア④(公園北部)		73	7/4	0.227	11/9	0.137	60.4%

※測定器：エネルギー補償型ガンマ線用シンチレーションサーベイメータ TCS-172B (日立アロカメディカル(株))

※測定値・測定場所の詳細は、市ホームページに掲載しています。

【公園除染(表土削り取り作業)の様子】



ひたち野さくら公園



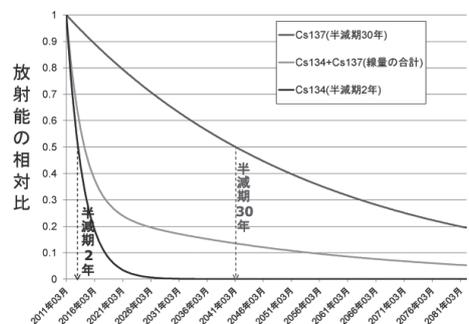
栄西第一公園

●放射線の基礎 [第12回] 放射性物質の半減期

放射性物質が核種(元素)ごとに元の半分になるまでの期間を半減期といいます。例えば、ヨウ素131は約8日、セシウム134は約2年、セシウム137は約30年、カリウム40は12.5億年の半減期です。放射能が半減するという事は、土壌の放射能濃度が下がり、空間線量が低くなるということです。

半減期から求めた減衰の理論値を右図に示します。図に示すようにセシウム134は減衰が早く、セシウム137はゆっくりと減衰していきます。セシウム134とセシウム137の線量の合計は、セシウム134に合わせて減衰し、その後はゆっくりと減衰していくことが図から読み取れます。

「放射線の基礎」は今回で終了します。次回から、「食品に含まれる放射能」について連載予定です。



半減期から求めた放射能の減衰の理論値 森口祐一東京大学大学院教授 民×公×学で挑む、オール柏の除染計画 講演資料「放射能汚染の実態に基づく柏スタイルの除染より」